

## 虚業と実業

升島 努

広島大学のアイデンティティーの一つ「平和」を大学の戦略にしようと考えられた平和科学WGに入れられた自分は、先日、小和田元大使（本学学術顧問）と懇談会を持つ機会を得た。その話好きに驚き、人の話を聞きながら、的確に簡潔にコメントできる能力と知識の広さ選択の適切さに驚いた。あの腰抜け日本外務官僚の中であって、この人はじっとそれを見抜きながらポリシーを持ってここまで来られたに違いない。我々の自己紹介に対して、「皆様のご意見をお聞きし、ガッカリした部分と安心した部分があります」という切り出しから始まった。広島というと被爆者、その被害者の論理から、エモーショナルに平和論が語られるに違いないと構えていた彼にとって、客観的に平和を捉えようとしている我々のコメントは肩すかしで、しかし安心した誤算のようだった。しかし、その切り出しは十分に我々の注目を引いた。人の力はこの様な瞬間にも感じられる。それが豊富で正確な知識に裏打ちされているのだから、なるほど日本も捨てたものじゃないと思わせるに十分な方だった。

娘さん（雅子さん）の事は一度だけ。平和は多様性のある概念、その普遍的な側面と同時に、地域性を考える時に文化人類学的アプローチもと言われ、娘はハーバードの文化人類学で学位を取ったのですがと言われたのみであった。（後で他の先生から教えてもらった事は、ハーバードの文化人類学は、他の大学と異なり各論でなく本質論を重視する学派だそうだ。）とても議論を楽しまれるタイプの様で、いつも自分の知識を広げ、現場（現在オランダハーグの国際司法裁判所）と議論でその知識と判断を検証してゆく実践的な姿が印象的であった。近年で初めてうなる人物に会わせて戴いた。学内で、あまりにも未消化な知識を振り回し、貧弱な企画力や戦略しかない人物ばかりを見ている中、本当に驚く程の迫力と、勉強している人というのはこういう人と言うのかととても感心した。

今年は、実に色々な人に逢えた年である。この小和田元大使をはじめ、秋葉市長など、広島市の経済界の要人とも沢山会うことが出来た、宇田広銀会長、渡辺マツダ会長、高須中経連会長、大田広島経済同友会代表幹事（広電社長）、森本もみじ銀行社長、榎並専務、金井RCC社長、その他地元大手企業の殆どの社長とお会いした。それは、ひろしま平和芸術週間（愛称をHiroshima Art-week for PeaceからHAPEACEとした）を企画し、それを形にしようとしたからである。全くやらなくても良いことなのに、広島に文化が無いと、生意気な事を言い、広島の被害者の平和論にも限界が出始めている今の被爆者の方々の思いをもっとポジティブな形で継承するにはどんな事ができるかを考えようと、昨年の秋から構想し、8月6日前後の広島を平和な芸術で一杯にしようと考えて、実行に移したものである。今思い返せば、良くこんなことを、こんなエネルギーでやったものだと思う。

幸い、西出 前中国経済産業局長が賛同してくださり、強力な後押しをして下さった。

ほんとうに頭が下がる位応援戴き、心底支えて戴いた。趣旨を地元の経済界のトップ達に説明して下さり一緒に訪問して下さったりした。その後、寄付の御願いに一人で上がった。そのお陰で、様々な方々と知己を得ることができた。地元の経営者のトップと一対一で会うことは、とても楽しかった。やはり経営者として生き抜いた人は、大学内で見ると甘い存在ではない、お互い値踏みの本勝負、その風格や考え方を見せて貰えるのがとても楽しかった。お金は十分では無かったが、その貴重なころざしを生かして、8月5日には、ホテルロビーとクレド広場や本通りを含む街角で、午後毎時開始のボランティア演奏によるホテルミュージックブリーズ、タウンミュージックブリーズを開始した。本通りアンデルセン前でのちびっ子コンサートなどはすごい人ばかりで、被爆者のおばあちゃんがうれしそうに聞いておられ後で感想を寄せられた。8月9日には、昼に子供を対象とした「子供ファンタジア」、夜は大人向けの「ピースフル・ヒーリングナイト」と題してアステールプラザ大ホールでコンサートを持った（いずれも無料）。この生まれて初めて企画するコンサートに、イツアスモールワールドを大合唱してうれしそうな顔をして帰ってゆく子供達の顔と顔、大人のコンサートに感激して下さったイズミの社長様ご夫妻はじめ多くの方々の反響がうれしかった。まだまだほんの小さな一歩、でも、その夜の打ち上げは、へとへの疲労感とともに開放感と充実感で一杯だった。この為に奔走してくれた山田秘書をはじめコンサートでボランティアをしてくれた教室員の皆さんに本当に感謝しています。このコンサートを通して、広島には、こんなにも多くの音楽家がおられるのかと改めてその層の厚さに驚き、素晴らしい音楽家に多くの知己を得た。来年は被爆60周年、街角コンサートは8月4、5、7日、そしてこどもファンタジアが8月3か4日、大人のコンサートが8月7日となる予定です。卒業生の皆さんの中で、ボランティアで協力して下さる方、子供連れでコンサートに来て下さる方、夫婦であるいは友達と大人のコンサートに来て下さる方、どうぞお待ちしております。

”h a p e a c e”（幸せは平和とともに）が、広島発の世界平和造語となるといいなと夢を描いています。今年の様子はHP ; <http://hapeace.jp> でご覧下さい。

一方で、1億2千万円頂いた産学連携プロジェクトも、これからの分析法の普及という意味で、次世代質量分析器と新しい比較培養ビデオ顕微鏡の開発に向かって進んでいった。そして8月26日HUMANIXというベンチャー企業の誕生となった。独法化とともに、責任を取りたいという意味で社長兼業を申請したところ、色々ともめたらしく4ヶ月かかりようやく認められたのが7月である。社長が偉いなどとは少しも思っただけなく、むしろその責任の重さのみを感じている。自分としては経営的なセンスも身につけれるかとする好奇心があっただけ。よく「忙しくなったでしょう」と言われるが、もともと儲ける事より、サイエンスの加速が目的、無理をしない主義で、受注生産しかしない。ペースはゆっくり、以前とさほど変わらない。会社設立は、教室の研究の目標でもある先端分析法の開発と普及を通して社会に貢献することと割り切っている。ベンチャーキャピタルも断り無

借金経営でやる。そう心に決めている。幸い、霞総合研究棟の2階にHUMANIXと、我が教室発の学生ベンチャーHUNANO（青木悠里社長）が同居する部屋を賃して戴け、資金的に楽な立ち上がりである。その後の展開は、後にある新聞切り抜きでご覧下さい。会社のHPは、今月中には立ち上がる予定で、<http://humanix.jp> です。

ちなみに、杉山先生からのお便りでもお話しがあると思うが、総合薬学科の先生方からは、多くの社会への研究成果からのプレゼントとも言えるプロダクツが生まれている。杉山先生からの第1段「新しいヨーグルト」、小池先生は、蛋白のリン酸基に特異的に結合するプローブ「Pho-s-tag」他の発売、そして森川先生は今、薬剤師の為の臨床現場データを使った「薬剤師教育支援システム」を開発中である。12名しか居ない薬学教授の中で当方も含め4人から、社会への贈り物が生まれている、おそらく全国見回しても、こんな高い確率の学科は無いと思う。

以上、教室から動き始めた社会との直接的な関わりを先にお話ししたが、これらは教室の本務である教育・研究あるいは企画実行力の高みから滲み出る余裕の産物と思っている。

その研究面では、パナマから来たガリ君が、毎日毎日夜遅くまで質量分析器の様々なアイデアの検証をコンピューターシミュレーションで進めてくれている。彼はおそらく、このSIMIONというシミュレーション使いとしては、世界の10人の中に入ったのではないかと思うくらい力をつけてきた。この質量分析器のデザインや検証を、いちいち実機製作で進めていたら時間とお金が幾らあってもここまでは来なかった。お陰で、様々な質量分析器の初めてのアイデアが検証でき、世界初のアイデアの詰まった質量分析器の完成へ大きな推進力になってくれている。後は特許と事業戦略の絡みがあるので、HUMANIXを通して出てくる質量分析器に期待していて欲しい。

更に、タイから来たアヌサク君が中心となり、念願のビデオで見ながら同時に質量分析法でその時放出された分子を追跡する「ビデオ・マス・スコープ（当教室発の造語）」の基本的な可能性を検証してくれ、それを見事実現してくれた。それが、彼の学位論文となった。更に、広島県が後援しスイスと霞キャンパスの国際産学連携で訪問したCOMET社とも連携することになった。ここは従来の質量分析器の検出器では極めて感度の悪かった高分子量のイオン検出能を世界初の極低温トンネル効果検出器で高感度化を可能としたユニークなMALDI-TOF型質量分析器を開発している。色々とお話しをしているうちに、日本の代理店の住商バイオサイエンスは何もしてくれないので、お前の会社で扱ってくれないかと言われ、開発も含め連携することとなった。この田園通信が皆様のお手元に着く頃は丁度スイスのCOMET社で共同研究を進めている最中と思って戴きたい。蛋白質のスクリーニングや、組織の蛋白マッピングに威力を発揮すると見ている。

今まで培って来たビデオでの細胞動態可視化の研究は、藤沢薬品との共同研究がきっか

けで、卒業生の方々が育ててくれたタイムラプス型ビデオ顕微鏡での展開となり、その問題点を解決したら、一度に4つのセルカルチャーが、ビデオ顕微鏡内で同時に比較できる比較培養ビデオ顕微鏡の開発につながった。今は、川内君がそれを最終検証してくれている。同時に、これが、来年明けのHUMANIXからの製品第1段となる予定で、今、地元の企業とその製造法について打ち合わせをしている最中である。

更に、念願の1分子イメージングも、平川先生と長谷川さんが中心に、昨年成功させてくれた。まだ1分子かどうかの検証が残っているが、分子が刺激とともに細胞質から細胞膜表面に近づき、その後核内に移行する様子が見えるその姿は何とも感動である。しかし、1分子イメージングはやればやるほど、新手法でやっているとは言え、生物物理若手の会で兄貴分だった阪大柳田さんのノーベル賞への道を近くしていただく。大いにうれしいが、こちら辺りですこしスピンを効かせようと考えている。これも来年に乞うご期待！。

教室は更に6年制を視野に入れ臨床分野へも展開を始めようとしている。分析力を生かした臨床展開をさぐるうちに、小児癌である神経芽細胞腫のマススクリーニングの問題が持ち込まれた。今まで全国でやっていたマススクリーニングを厚生労働省が中止した所から問題は発する。陽性と判断された群以外からも予後の悪い腫瘍が現れ、相関が明確でないと言われて止まったこのスクリーニングに、今、教室はドクターと一緒に、解析力を生かして新しいマーカー探索に取り組み始めた所である。これには、長谷川、青木、そして社会人から博士課程に入ってきた久保田の3君が中心になって取り組んでいる。

「解析分子医療」(Analytical Molecular Medicine) そんな分野をこの様な薬学からの臨床展開に対して創生したいと願っている。

今年は、当教室の配属希望者が多かったと聞く。その中から選りすぐりの3年生が入って来てくれた。こうして教室の席はもう一杯になりかけた。中の宝みなどと、そして外の様々な宝の人達とともにこうして仕事ができることを、ありがたく、また誇りに思う。

虚業と実業、何をもって虚業と言ひ、何をもって実業というか、それは人々で異なると思う。事業が実業ではないが、事業で初めて現世の世の中の人々のニーズや心と接することになる。しかし、その現世の刹那では無く、永遠へのSolutionを託されたタスクの中で見つけ、それに魂を吹き込めたとき、それはきっと真の「実業」といえるものになるのではと思う。

教室も更に前進します。どうか皆様も勇気をもって前進して行って下さい。

平成16年11月吉日

P.S. 今年は、家族に不幸があり、年賀状などの賀詞は遠慮させて戴きます。悪しからずご了承下さい。いつも年賀状を下さる皆様、皆さんの近況はいつも楽しみです。恐れ入りますが、教室宛に下されれば幸いです。また、将来のメルマガ発行に向け、メールでのご連絡も楽しみにしています。



hapeace コンサート

Peaceful

夜

Healing

風のかげらを

Night

あ

て

め

つ



- 猪原和子 チェロ  
(大城 要 ピアノ伴奏)
- 上野真樹 バイオリン
- 小川裕雅 パーカッション 他
- 藤咲真介 ホルン
- 松永光紗 歌
- 吉野 妙 ピアノ
- 益田恵理子 ダンス
- 岩室朱美 ダンス
- 寺内大輔 編曲
- 三宅珠穂 編曲

創作音楽&ダンスによる

初演 アメイジンググレース物語

アメイジンググレースの編曲4作品

日本歌曲  
浜辺の唄  
宵待草 ほか

揚げひばり  
アヴェ マリア G. カッチーニ作曲  
虹の彼方に H.ARLEN作曲  
「オズの魔法使い」より  
ほか

2004 8/9 月曜日

アステールプラザ大ホール  
開場 18:00 開演 18:30(終演予定 21:00)  
入場料 無料(要 申し込み) お申し込み方法は裏面をご覧ください。

ディズニーソング  
美女と野獣  
星に願いを  
アンダー・ザ・シー ほか

主催 hapeace ひろしま芸術週間 実行委員会  
後援 広島県・広島県教育委員会  
広島市・広島市教育委員会  
広島経済同友会・広島青年会議所